

06 科学部が大学や科学館と連携して行う活動を支援 中高生の科学部活動振興事業



事業の概要

現 在の日本の中学校、高等学校で科学部のある学校は、中学校で3割程度、高等学校で7割程度である。科学部は、運動部などに比べて、学校から部費として支給される活動費が極めて少なく、満足いく活動ができないことも多いという。

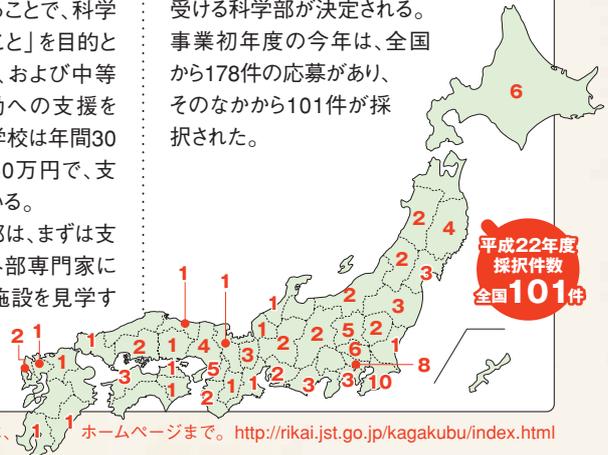
科学技術創造立国をうたう日本の学校において科学部の活動は、授業とは別に「考えることを学ぶ機会」として重要なものである。

こうした認識のもと、JSTでは平成22年度から新規事業「中高生の科学部活動振興事業」を実施している。

この事業では、「理科や数学にすぐれた資質や能力を持つ生徒を見だし、継続的な活動を実施することで、科学部の活動が振興されること」を目的として、中学校、高等学校、および中等教育学校の科学部活動への支援を行う。支援の規模は、中学校は年間30万円、高等学校は年間50万円で、支援期間は3年間となっている。

支援を受けたい科学部は、まずは支援期間中に行う活動（外部専門家による指導を受ける、先端施設を見学するなどの、大学や科学館と連携する活動）の提案

をJSTに提出する。そして、応募されたなかから、厳正な審査によって支援を受ける科学部が決定される。事業初年度の今年度は、全国から178件の応募があり、そのなかから101件が採択された。



事業の詳細については、ホームページまで。 <http://rikai.jst.go.jp/kagakubu/index.html>

採択機関の活動事例より

千葉県

中央学院高等学校生物部 ラン科植物の無菌培養に関する研究 ～絶滅危惧種アサヒエビネの 自生地復元の試み～

中央学院高等学校生物部は、創部以来34年間、ラン科植物の無菌培養に関する研究を行っている。19年前からは、小笠原諸島に分布し、絶滅危惧種である、アサヒエビネの保護・増殖に関する研究を実施してきた。

同部では、すでに無菌培養により育成させた苗を、試験的に小笠原へ植え戻したところ、開花・結実したため、その種子を再度無菌播種した結果、発芽・



成長を確認した。この実験から、無菌培養株でも、正常な生殖能力を持つことが証明され、アサヒエビネの無菌培養による発芽から植え戻しまでのサイクルを確立することができた。

同部は高校生の部活動とは思えない、大きな成果を収めており、これらの実績により採択された。本事業の支援により、さらなるアサヒエビネの保護・増殖のために必要な調査器具および実験にともなう備品の購入等ができるため、活動をさらに充実させる予定だ。

東京都

多摩科学技術高等学校科学研究部 小金井地区の環境調査 湧水の調査と、 源流である野川の生態系の研究及び、 それらの調査を基にした独自の ビオトープの研究と製作

多摩科学技術高等学校は都立で2校目の科学技術高校として、この4月に開校したばかりだ。科学に関心のある生徒が多い学校のなかであって、特に強い興味を持った生徒たちが集ま



ったのがこの高校の科学研究部である。

1年生だけの部活動だが、熱心な生徒が集まっており、東京農工大学、東京学芸大学、NPO法人、小金井市との連携で小金井地区の環境調査を行うという提案で採択を受けた。

小金井地区は、多摩地区でも有数の湧水地帯であり、多様な植物相や生物相を有するが、近年その環境にも少なからず変化が起きている可能性があるという。本事業の支援により、この自然豊かな環境の調査・研究を進めていくことになっている。

TEXT：大宮耕一